

第1章 基本理念・将来都市像

1 基本理念

(1) 人を育むまちづくり、まちを育む人づくり

市民一人一人が、地域の中での存在意義（居場所）やライフワークを見出すことができるまちを目指したい。それは個人の生きることの喜びや幸福感（生きがい）から、地域への愛着、誇りへと高まり、「上越市に住み続けたい、戻ってきたい」という思いや、上越市を支えようとする力の源泉、上越市全体の活力にもつながっていきます。

これらの積み重ねによって、市民のライフスタイルがまちの品格を高め、そのまちの力が市民の豊かなライフスタイルを支えていく好循環によって、真の豊かさを享受できる上越らしい多様なライフスタイルが実現できると考えます。

(2) 個性と調和、自立と共生によるまちづくり

チーム上越。市町村合併の意味を改めて問う

上越市が持続可能な発展を遂げるためには、多様な市民や市内の各地区がお互いを認め合いながら切磋琢磨し、それぞれの個性を魅力へと高めながら市外へ広く発信するとともに、市全体として調和ある輝きを放つような一体感の醸成が必要です。

そもそも市内の各地区は、古より歴史・自然・経済などの面から深いつながりを有しています。市町村合併と都市内分権の推進は、その絆を再認識し、個性と調和のあるまちづくりを可能にするためのしくみづくりであり、これからは真の意味での「チームプレー」が求められています。

各地区が個性を持った多様性のあるまちは、ライフスタイルの豊富な選択肢を提供することができます。また、それぞれの個性が織りなすことは、新たな価値を生み出す大きな可能性や危機管理としての意味ももっています。多様性は、違いを認め合う心を育み、違いのあるものが出会うからこそ生まれる新たな価値を創出する源泉でもあります。

都市間競争の時代においては、個性の過度な主張による対立構造や、多様性が淘汰されることによる衰退や画一化を生み出すことも少なくありません。だからこそ、多様性の維持のためには絶え間ない努力が必要です。

(3) 次世代につなぐまちづくり

まちの持続可能性を考える

人口減少、財政難の時代においては、社会、経済、環境の面から持続可能性を前提とした地域経営が必要です。

上越らしさを醸し出す地域資源を蓄積し次世代に継承していくとともに、右肩上がりの成長思考に基づいた取組については改めていく必要があります。

2 将来都市像

私たち上越市民が愛着を感じている豊かな自然環境は、地勢や気候の面からみても特に起伏や多様性に富んでいます。冷たくてあたたかく、厳しくてやさしく、災害と恵みをともにもたらしなどの二面性をもった自然環境によって、人々の知恵、体力、感性や生活文化が培われてきたといえます。

多くの社会問題が複雑に絡み合う時代を生き抜くためには、多種多様な知恵の習得が必要とされます。このような時代であるからこそ、この自然環境をかけがえのない地域資源として再認識し、豊かな生活を営むための身近な存在として深い関わりを持ち、それを通じた学びができる環境を大切にしたいと考えます。

一方、人口減少社会や情報社会の進展を考えたとき、改めて人のもつ力や、人から人への直接的な伝達、人と人との出会い、つながることによって生まれる新たな力に着目すべきと考えます。

上越市は古より交通の結節点にある都市として栄えてきました。また、北陸や関東甲信越、東北などの様々な地域区分が交錯する地域でもあります。上越市は地勢的・歴史的に交流を盛んにできる高いポテンシャルを持っていますし、今後、北陸新幹線開業などに向けて交流の必要性はますます高まってくるといえます。

また、市民の交流によるつながりも大切にしていきます。子育てや教育、防犯、防災などの様々な分野において、人と人とのつながりの希薄化が主な要因となっている問題も数多くありますが、この絆を強め大切にしていくことで、安全・安心な空間を育ていけると考えます。

人は最大の資源であり、学びと出会いが織りなす共鳴によって得られる力は絶大です。学びの豊かな人と人が出会うことによって、それぞれが知恵や人間性を高め、その豊かな人間性がさらに豊かな出会いを創出することで、知恵が知恵を、人が人を呼び込み、あらゆるものを創造する源泉となっていく、そんな上越市であってほしい。

そのようなことを切に望み、上越市のめざす将来都市像を次のように掲げます。

海に山に大地に 学びと出会いが織りなす 創造都市・上越

(参 考) 将来都市像の考え方

(1) 全体的な考え方

- ・ 新市建設計画、市民会議素案をベースに構成を検討
 - 新市建設計画 海に山に大地に なりわいと文化あふれる 共生都市・上越
 - 市民会議素案 海に山に大地に 輝きあふれる 自立都市・上越
- ・ 基本理念とのすみわけ
 - 自立と共生 基本理念へ
- ・ まちづくり重点戦略（政策）との関連性を重視
 - 人を育む基盤を大切にし、人と人の交流による力を有効にいかす

(2) キーワードの考え方

- ・ 静から動へ

要件	要素（キーワード）の例	これまでの地域特性との関係性（ポテンシャル）	これからのまちづくりとの関係性
多様な地域資源	自然、 海に山に大地に 環境、境界	<ul style="list-style-type: none"> ・上越市の伝統的ななりわいや生活文化、アイデンティティの原点、 ・地球環境都市としての実績 	<ul style="list-style-type: none"> ・活かせば資源、放置すれば脅威
何を大切にまちづくりを展開するか	学、学習、 学び 、 育む、感性 心・技・体、知、智	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の盛んなまちとしての実績 ・流域圏を抱えることによる学習資源の豊富さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・知恵が求められる時代 重点戦略1、(2～5)
	つながり、交流、絆 出会い 、ふれあい、縁	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の結節点、 様々な地域区分の交錯 	<ul style="list-style-type: none"> ・新幹線開業に代表される交流促進の可能性と必要性 重点戦略(2)、3～5
	× 織りなす	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な地域区分の交錯 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びと出会いの積み重ね、循環 ・歴史文化の積み重ね、温故知新 ・チーム上越
総称する状態 ・目指す方向 (なまち)	a 人間性、人間力 ヒューマン みんなのふるさと		<ul style="list-style-type: none"> ・徹底した人づくりの姿勢を示す
	b 情熱、エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・食、燃料としてのエネルギー ・雪国、奥ゆかしい気性との対比 	<ul style="list-style-type: none"> ・人のエネルギー ・学びと出会いが織りなす場の状態を端的に示す
	c 前進、邁進		<ul style="list-style-type: none"> ・前進する姿勢を示す
	d 創造	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の素材は豊富 市外からの素材調達も容易な交通の結節点 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいものを生み出す姿勢を示す